

vol.
050

障害社通信

2025年
10月号

10月になりました。10月は「神無月」（かんなづき）とも呼ばれ、日本中の神様が話し合いのために島根県の出雲大社に集まるので、他の地域には神様がいないためと言われていいます。秋の気候が深まり、紅葉やハロウィン、文化祭や体育祭などの行事、そして秋の味覚を楽しむ時期でもあります。みなさんは誰とどんな秋を楽しみますか♪

新しいスタート！本社を移転しました

このたび当社は、業務拡充とサービス向上を目的として、本社および「パーソナルアシスタント町田」「相談支援事業所ビバモス」「資格講習事業所つばめ」を2025年10月10日付で同じ町田市内に下記住所に移転いたしました。

＜新住所＞

〒194-0021東京都町田市中町一丁目2番14号 フォレシア町田1階

新事務所は小田急線町田駅より徒歩で約4分と、旧事務所より駅からのアクセスが良くなりました。



新事務所のエントランスです

新事務所前で集合写真を撮りました



この記事を書いている10月15日現在、まだ移転作業の影響で段ボールが山積み状態ですが...🌧️、やはり新しい事務所（しかも新築ビルです）は気持ちがいいですね。「絶対にキレイに使おう」と誓いました！前の事業所を片づけているときには、少しノスタルジックな気持ちにもなりましたが、ここは心機一転、新しい環境とともに次のステージへ進んでいきたいと思っています。皆様ぜひ遊びに来てください！

国際福祉機器展に参加してきました

国際福祉機器展は、世界の福祉機器を一堂に集め、福祉に関する様々なフォーラムなどが開かれるアジア最大規模の国際展示会です。毎年開催されており、今年のイベントを見学した当社スタッフの三井本部長に感想を聞いてみました。

「2025H.C.R.国際福祉機器展に行ってきました。国際福祉機器展はその名の通り国際レベルであらゆる福祉機器が東京ビックサイトに集結する一大イベントです。今回4時間かけて全部のブースをみて回ったのですが、何か大きく驚いたものはありませんでした。これはネガティブな話ではなく、福祉機器の市場そのものが円熟してきているのだらうなと感じました。ただ、相も変わらず福祉機器をより良いものにしようという作り手の熱意は熱いものがあり、その熱意に当てられると今年も来てよかったなと思えました。写真は以前から商品の意見交換もしている株式会社



フットマークさんの車椅子レインコートですが、以前私の方から出させていただいた意見を反映させて改良したので再度試してほしいとの事で、ブース内で試着させていただきました。

また、国際福祉機器展は多くの当事者が集まる場所でもあります。普段会えない当事者のリーダーやインフルエンサーのかたにふらっと出会って会話を交わせる貴重な場所でもあります。たくさんの人と機器に出会える国際福祉機器展は毎年開催されています。皆さんもぜひ2026年HCR国際福祉機器展に参加されてみてはいかがでしょうか。」

PAMカフェ報告

当社スタッフ藤田さんより10月5日に開催されたPAMカフェ新江ノ島水族館の様子です。当日は20人程の参加者がそれぞれ4つの班に分かれ新江ノ島水族館内を散策しました。順路をすらすら進む班、展示をじっくり観察する班、会話の盛んな班、とそれぞれ班の個性が出ていたかと思います(とても弊社らしいですね！)。そして、今回はただ散策するのではなく事前に「水族館の生き物に関する漢字クイズ」の書かれたカードを配布し班で問題を解きつつ散策する所謂クイズラリーのような企画も行われ大いに盛り上がりました。以下、当日出題された問題です。

初級【海月】 中級【川獺】 上級【企鵝】 わかりましたか？

参加されなかった方にも少しでも当日の空気を共有出来たら幸いです。

(クイズの答え→上から、クラゲ、カワウソ、ペンギン)



当日参加された方からは、『最近、日々の勤務や「共生社会」という社会的な目標にとっても行き詰まりを感じておりましたが、普段顔合わせない「会社の仲間」との交流の場を持って「自分には素晴らしい仲間がいる、この人達となら乗り越えて行ける」と気持ちが晴れた素晴らしい一日になりました。』企画担当としては「もっと企画練れたらどうか？」と悩みながら当日を迎えましたが、楽しそうな皆様の様子を見てとても救われた気持ちになりました。参加して下さいました皆様、本当にありがとうございました。

11月11日は「介護の日」。

障がいのある私にとって、日々の暮らしは「ひとりでは難しいこと」の連続です。外出、食事、移動、手続きなど、誰かの支えがあってこそ成り立っています。そっと手を貸ねること、それは“あたりまえ”じゃなく、“ありがたい”こと。「いい月、いい日」という語呂合わせには、そんな日々への感謝が込められているように感じます。私自身、家族やヘルパーさん、地域の方々に助けられながら、自分らしい生活を続けています。介護には、身体的な支援だけでなく、心の寄り添いや、社会とのつながりを保つ力もあると思っています。障がい者にとっての介護は、「できないことを補う」だけでなく、「できることを広げる」「自分らしさを守る」ための大切な関係性です。



いつも心にある「ありがとう」を伝えたい。そして、介護がもっと自然に語られ、誰もが安心して支え合える社会になってほしいと願っています。



Google Mapsのバリアフリー

Google Mapsには、外出をより安心にしてくれるバリアフリー機能があります。公共交通機関の経路検索では、フィルタ条件で「車いす対応」を選ぶと、



バリアフリーを考慮したルートを提案してくれます。また、ユーザー補助設定で車いす対応をオンにすると、お店やサービスの入口やトイレ、座席、駐車場、エレベーターなどの情報を確認できます。事前に調べられることで不安を減らし、障害のある方をはじめ高齢者、ベビーカー利用者にとっても外出の選択肢が広がる便利な機能です。安心して出かけるために、ぜひ活用してみてください。



障がい者にとっての介護は、「できないことを補う」だけでなく、「できることを広げる」「自分らしさを守る」ための大切な関係性です。



障害社
facebook



重度肢体不自由者のリアルな生活



Shogaisha stories

当社の様々な情報をSNSでお届けしています！
それぞれQRコードからご覧ください！

障害社通信について、みなさまのご意見をお聞かせください！！



株式会社 障害社

〒193-0021

東京都町田市中町1-2-14 フォレシア町田1階

TEL: 042-850-9141 / FAX: 042-850-9142

MAIL: info@shogaisha.co.jp

障害社HPは
こちらの
QRコードから

